病院長より新年のごあいさつ

謹んで新年の
お慶びを申し上げます。

明けましておめでとうございます。

皆さまにおかれましては、新たな決意と希望を抱いて、令和6年を迎えられたことと存じます。コロナ禍で行動制限があった昨年に比べ、にぎやかで華やかな従来の活気を感じられる、年末年始であったのではないでしょうか。

昨年は、新型コロナウイルス感染症が、2類からインフルエンザと同等の5類に引き下げられ、様々な制限が撤廃されました。それに伴い、スポーツ観戦における声出し応援・勝敗に狂喜乱舞する群衆、国内外から押し寄せる観光客によるオーバーツーリズム風景など、世の中は、もはや新型コロナは忘れ去られたかのような、完全にAfterコロナの様相です。不要不急の外出自粛や3密の回避が叫ばれていたのも、今や遠い過去の出来事のような気がします。Afterコロナは大きな潮流となり、人々も経済も大きく動き出しています。

一方で、健康弱者とともに歩む、我々、医療者には、引き続き、ゼロコロナが求められます。

ひとたび、院内に感染がまん延すれば、たちまち病床はひっ迫します。スタッフの感染は、医療提供体制に直結します。そのため、我々はウイルスを持ち込まない持ち込ませない、感染しない感染させないために、厳しい感染防御態勢を維持し続ける必要があり、緊張した状態が続いています。

院内におきましては、外来・入院患者さまにも、引き続き、感染対策にご協力いただくことになりますが、どうかご理解いただき、ご協力を頂ければ、幸甚です。

さて、コロナ禍から抜け出したかのような今年、2024年ですが、団塊の世代がすべて75歳以上の後期高齢者となり、国民の5人に1人が後期高齢者となる来年2025年に先立ち、50歳以上の人口が5割を超える大きな社会構造の変化を迎える年となります。それに伴い、医療介護のニーズは一層高まります。

一方、4月からは「働き方改革関連法」が医師にも適応され医師の労働時間が制限されます。これにより、医療、特に夜間・救急診療の現場に影響が及ぶことが懸念されています。しかし、ライフラインの中で最も重要な医療体制のひっ迫は絶対に避けなければなりません。

我々は、この改革をチャンスととらえ、柔軟で多様な人材の確保、他業種へのタスクシフティングを進め、多業種で協力し合い、これまで以上に質の高い医療を提供します。

「断らない医療」、「24時間オープン」の信念のもと、職員一丸となって、2024年、甲辰（きのえたつ）・成長と躍動の年を歩んでまいります。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

病院長　山崎　誠治